

スピーカーズ コーナー

広報委員が地域の皆さんに
インタビュー!

島の商業界をけん引してきた一人でもある 新島村商工会長の宮原 淳さんにお話を伺いました。

(取材・富田 浩章)

富田：大学卒業後、

すぐに新島に帰って

きたわけですが、実家

の酒屋を継ぐことを初め

から考えていたのですか？

富田：宮原さんは1926年創業で、

会長が4代目。2026年には100

周年を迎えますが、これまで苦労した

ことは？

富田：会社の今後の目標は？

宮原：今はどうしても小売業が中心です

が、お酒をメインにして、今以上に島外

に販路拡大を考えています。令和6年

になり、地理的表示(GI)「東京島酒」が

国税庁長官より指定されましたし、「伝

統的酒造り」についてユネスコの無形

文化遺産に登録されるなど、追い風を

感じつつあります。

は起業する若い人たちが増えてい
ます。このような流れは大事にし
ていかなければなりません。私が
帰島した40年近く前とは違い、I
Tが発展し情報受発信の格差がな
くなりました。島の中だけで収ま
るのではなく、常に視野を広げ、新
しく正しい情報を吸収・市場が望
む情報を発信してビジネスを展開
していただきたいと思えますし、
商工会もさまざまな支援をしてま
います。

編集後記

12月定例会という年末での編集後
記となりましたが、秋頃からの議会
活動編集編のようなボリュームと
なっていました。

今回の議員視察を、報告会への弾
みとして位置づけ、しっかりと議会・
議員活動を通じて政策提言をできる
ように創意工夫していきたいと思っ
ております。

また、この過程そのものを公開・共
有していきたいと思えますので、議
会だより・議会ウェブサイトともこ
れからもご愛読よろしく願いま
す。

木村 諭史



宮原淳さんプロフィール

昭和39年6月21日生まれ、新島本村出身。
新島中学校を卒業後、都立秋川高校、東京農業
大学醸造学科卒業。令和6年度より新島村商工
会長に就任。株式会社宮原代表取締役。

宮原：特に考えていたわけではないの
ですが、我々の世代は「長男が家を継
ぐ」のが当たり前でした。なので、醸造
に関する幅広い知識を学ぼうと農大
の醸造学科で勉強しました。

宮原：今でも苦労しっぱなしです
(笑)。帰ってきたころは設備が小さ
く、規模が限られていました。今日ま
で、また、これからも一生かけて設備
投資をしていきます。

富田：次々と新作の焼酎を開発し、東京国税
局の本格焼酎部門では5年連続で「優等賞」
を受賞されました。商売する上での課題は
ありますか？

宮原：荒天時の物流が不安定なこと、人
材不足が要因の一つかも知れませ
んが、貨物が毎日入らないこと、また燃料
高騰など地理的・社会的状況に左右さ
れることなどは課題でクリアすべき問
題です。

富田：島の商業の今後について一言を！

宮原：商売は苦しいこともあります。楽
しむことでもあると思います。近年、島で